

地域を活性化する農村女性起業の育成支援策

《東北地域の農村女性起業》

東北農村では、農産加工や農産物販売など自家農産物を活用した女性による事業が多く営まれています。これらは農村女性起業と呼ばれ、雇用創出や特産品開発等の地域活性化効果を持っています。特に、40、50歳代の壮年層による起業は、60歳代以上の高齢層の起業より売上が多く、地域活性化効果が大きいという特徴があります。

こうしたなか、起業の6割を超えるグループ経営では、従来からJA女性部や農村生活研究グループ等の、就農女性を主な構成員とする既存の地域組織が主な起業母体となりました。しかし、壮年層では農業ではなく農外に就業している女性が多いため、これら既存組織の活動が停滞しており、旧来とは異なる起業の育成支援策が求められています。

そこで、東北地域の売上が多い壮年層の起業事例からグループ経営における起業の育成支援策を解明しました。

《起業プロセス》

農村女性起業は「既存組織を起業母体とする（既存組織母体）か、それとも新設組織を起業母体とする（新設組織母体）か」「外部機関の働きかけによる起業か（外発的動機づけ）、それとも女性自らの意思による起業（内発的動機づけ）か」の違いにより、A. 既存組織母体・外発型、B. 既存組織母体・内発型、C. 新設組織母体・内発型に3分類できます。

これらの各類型で起業までのプロセスは異なります（図）。A、B類型では、技術力や人望のある既存組織のリーダーが、事業シーズや起業パートナーを得て起業しています。これに対しC類型では、起業動機を持ち既存組織に所属しない女性が、自ら行政や農協等の関連機関に働きかけ、地元食材の勉強会や調理研究会など起業母体となる組織の結成・活動、施設整備での支援を得て起業に至っているのです。

東北地域活性化研究チーム

澁谷美紀

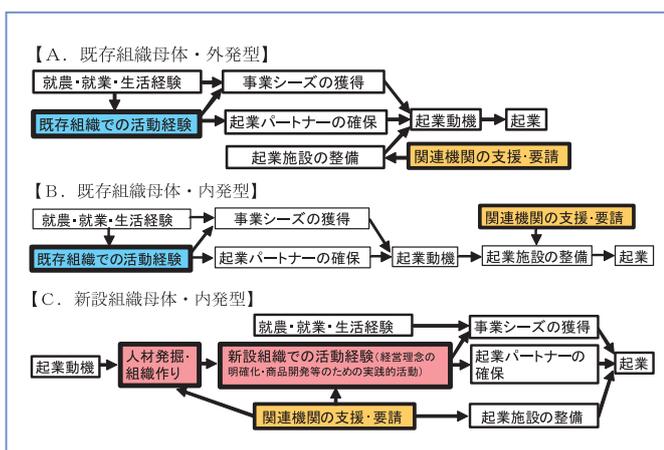
SHIBUYA, Miki



《壮年女性による起業の支援策》

従来、関連機関は、A、B類型のように就農女性を構成員とする既存組織のリーダーに対して、起業を促す支援策をとってきました。しかし、壮年層では農外就業の女性が多いことから、今後は、C類型の育成支援が特に重要です。C類型の起業の促進には、既存組織のリーダー以外の女性をも視野に入れ、起業を目指す人材を発掘し、起業目的の組織作りを行う必要があります。C類型の起業リーダーはA、B類型の起業リーダーと異なり、起業パートナーの基盤や事業シーズの源泉となる既存組織での活動経験に乏しいため、それらの経験を補う活動を支援する必要があります。

こうした人材の発掘や組織作りのための構成員の募集には、関連機関の広報手段の活用が有効です。また、新設された組織では、経営理念の明確化や消費者ニーズに基づく商品開発・店舗運営法の習得に向けた活動が求められます。そのためには、他起業の運営状況や組織作りの研修、地元食材や伝統食の見直し等から事業シーズを探索する学習、消費者や専門家の助言に基づく試食会や模擬販売の実習など、実践性の高い活動への支援が重要といえるでしょう。



図／類型による起業プロセスの違い

